

八雲グリーン・ツーリズム

推進協議会

(農泊)

渡島総合振興局

## 【協議会の特徴・理念】

魅力のある地域資源を活用した体験メニューを通じて、インバウンドを含む多くの観光客と地元住人の交流を図り、地域の活性化と観光業の発展を目指す。

## 【地域の概要】

### ①自然環境

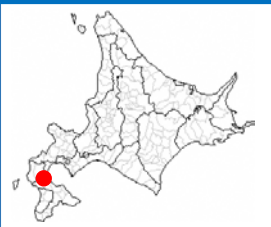
日本で唯一、太平洋と日本海の二つの海に面しているまちであり、遊楽部川ではサケの自然産卵、天然記念物のオオワシやオジロワシの飛来が観察できるなど、多様な自然と都市としての利便性がほどよく共存するまちである。



北海道八雲町

### ②人口

八雲町：16,117人(2019年)



### ③主な産業

#### ●農業

軟白ねぎをはじめ、道南唯一のもち米団地があり、多種多様な農産物を生産している。また、「近代酪農発祥の地」として酪農が盛んである。



#### ●水産業

噴火湾では、ホタテガイ養殖漁業を主体とし、サケやカレイ、コンブなど数多くの魚介類が採れる。

日本海側では、スケトウダラやイカ漁を主体とし、アワビ養殖漁業などが行われている。



### ④イベント等

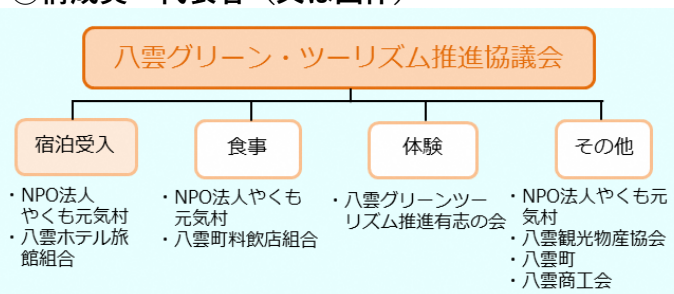
- ・八雲山車行列
- ・熊石あわびの里フェスティバル

## 【協議会の概要】

### ①設立年

2018年～

### ②構成員・代表者（又は団体）



### ③協議会設立の経緯（きっかけ）

観光地である函館市と札幌市の間に位置する八雲町では、通過型の観光がメインであり、長期滞在型観光メニューの開発が必要であった。2014年から「都市農村共生・対流総合対策交付金事業」を活用し、体験事業に取り組んだが、受入負担が原因で、事業期間終了後は継続が難しかった。そのため、農・漁業者の受入負担を軽減し、スピード感を持って対応が可能な事業実施主体が必要と考え、NPO法人 やくも元気村が中心となり、協議会を設立した。

### ④協議会の活動内容

- ・総会
- ・体験受入
- ・プロモーション
- ・商品開発

### ⑤現在の課題

- ・集客に向けたプロモーション方法の検討
- ・農泊関連事業に携わる人材の育成
- ・協力農家、漁家の拡大や町内の他事業者との連携
- ・コロナ禍での体験メニュー開発

## 【主なコンテンツの種類及び実績】

### ①宿泊者数（人）

年度	古民家ゲストハウスSENTO
H30	191
R1	785
R2上半期	308

R2下半期については、400名程度を予定

### ②体験メニュー（人）

年度	農業体験	漁業体験	自然体験	文化体験
H30	18	5	15	13
R1	38	38	52	24
R2上半期	10	10	10	2

R2下半期については、40名程度を予定

### ③利用状況

【利用者の形態】

	インバウンド	国内
宿泊	19%	81%
体験	53%	47%

### 【利用者の声】

- ・見るだけの観光ではわからない田舎のディープなスポットを楽しむことができた。
- ・地元の人と深く交流して、交友関係が広がったことがとても楽しかった。
- ・面白い地元の人がたくさんいて、人そのものが観光の目玉になり得ると思った。

## 【特徴的な取組】



### <宿泊>

○築100年以上の元銭湯を改修し、「地場産レストラン」と「直売所」を併設した古民家ゲストハウス「SENTŌ」を作り、宿泊滞在施設として活用

縁側や床の間だけでなく、木彫りの熊や剥製などがあり、日本らしい和の雰囲気を感じられることから、外国人からの評判が良い

### <アクティビティ>

○野菜の収穫や和牛のお世話などの「農業体験」や「八雲名所巡りツアー」「もち米農家で本格餅つき体験」、「星空観察体験」などの魅力ある地域資源を活用したメニューを用意

### <特徴的な取り組み>

○「オリジナルねぷた作り体験」や「熊彫り体験」などの地域の文化を体験できるプランも提供

○新型コロナウイルス状況下でも八雲町の魅力を発信するため、オンライン体験ツアーを実施

○教育旅行の受入を実施



## 【連絡先】

代表窓口：NPO法人やくも元気村

(担当 赤井 義大 TEL 0137-66-5526 E-mail info@yakumo-village.com)